



The Royal Pita Maha

メインダイニング「Dewata Lounge」はホテルの顔とも言えるレストランで、テラス席から壮観な景色を見渡せる。ザ・ロイヤル ピタマハは「ウブド王家のホテル」と評され、芸術の村ウブドの大自然を流れるアユン川渓谷にこの地の王族が4年の歳月を経て建設し、2004年に完成した王家の伝統を受け継ぐ隠れ家リゾートである



美しいリゾート庭園にバリ様式のヴィラが点在する風景。“神々の集う場所”と言う名前が付いたクデワタン村の大自然とリゾート内のさまざまな伝統芸術との融合は圧巻と言える



ザ・ロイヤル ピタマハ「The Royal Pita Maha」の正面エントランス



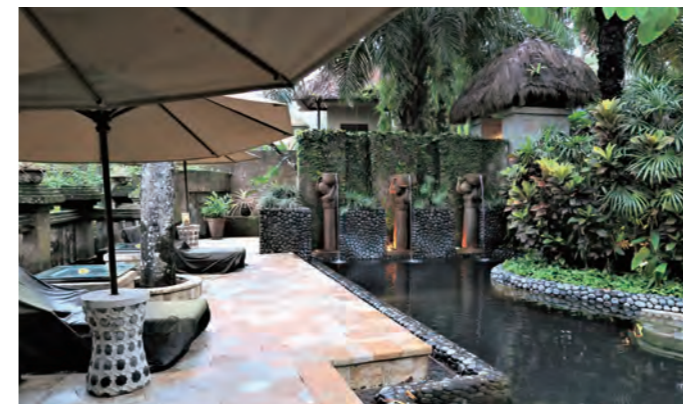
アユン川渓谷に沿って造られたラグーンプールから遠望するザ・ロイヤル ピタマハの本館。最上階にある「Dewata Lounge」の弧を描く姿が確認できる



筆者 小原 康裕
国際ホテルジャーナリスト

慶応義塾大学法学部法律学科卒。
1974年 Munich Re 入社。
2001年投資顧問会社原健設立、
代表取締役 CEO。
JHRCA、日本ホテルレストランコンサルタント
協会専務理事。
SKAL International Tokyo、
Professionnels du Tourisme 会員。
JARC、日本宿泊施設関連協会
アドバイザーボードメンバー。

www.jhrca.com/worldhotel/?cat42
www.hoteresonline.com
<https://www.facebook.com/yasuhiro.obara.16>



かつて資生堂がプロデュースしたスパ施設「Royal Kirana Spa & Wellness」の専用プール



熟練した専任のトリートメントスタッフ。独立したスパヴィラは13棟からなり、喧騒の世界から究極のリラクゼーション空間に誘う

The Royal Pita Maha

“ウブド王家のホテル”ザ・ロイヤル ピタマハ「The Royal Pita Maha」。まさにバリらしいホテルとはこのホテルのことを言うのであろうか。芸術の村ウブドの大自然を流れるアユン川渓谷にこの地の王族が4年の歳月を経て建設し、2004年に完成した王家の伝統を受け継ぐ隠れ家リゾートである。渓谷を一望する絶景リゾートの建設にあたり、バリ島中の芸術家がリゾートのために大集結し、バリ・ヒンドゥー教の伝統・文化に基づいた絵画や石像や彫刻の数々を制作した。“神々の集う場所”と言う名前が付いたクデワタン村の大自然

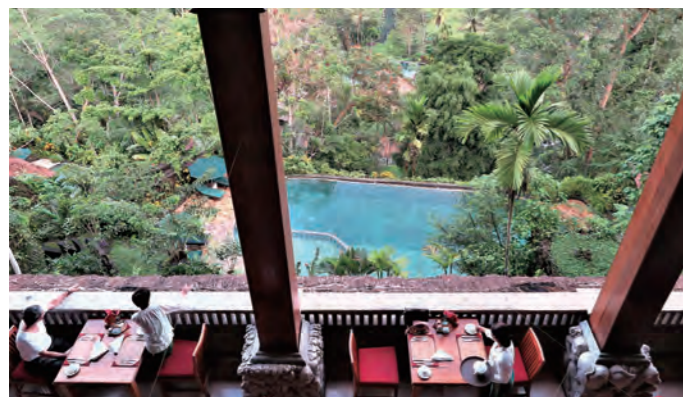
然とリゾート内のさまざまな伝統芸術との融合は圧巻と言える。リゾートの名称であるピタマハとは現地言葉で「ピタ光・マハ輝く」という意味を持つ。ピタマハグループは1928年、ウブドで最初のホテルとして「ホテルチャンプアン」を創設。かつては芸術家達の集うホテルでもあり、多くの著名な人材を暖かくもてなしてきた。後に隣接して隠れ家リゾートの先駆者となった姉妹ホテル「ピタマハリゾート」の建設を経て、ザ・ロイヤル ピタマハをオープンさせた訳だ。“リゾート全てが芸術作品”と評されるほど、敷地内の至る所に絵画や石像・彫刻作品が溶け込み、神々へのお供え物やお香の残り香などバリ・ヒンドゥー教の伝統文化を肌で感じられる。



メインダイニング「Dewata Lounge」のエントランスに待機し、笑顔で対応するレセプションスタッフ



「Dewata Lounge」のディナーセッティング。壁面を飾る大きな彫刻作品に目を奪われる



「Dewata Lounge」の階下にあるオールデイダイニング「Ayung Valley Restaurant」の朝食風景。真下にインフィニティプールを俯瞰できる



リゾート内にあるヒンドゥーの祠「Ayung Temple」。神々へのお供え物やお香の残り香などバリ・ヒンドゥー教の伝統文化を肌で感じられる



「Ayung Garden Restaurant」でオーガニック食材の朝食を準備する笑顔のスタッフたち



「Ayung Garden Restaurant」はアユン川のほとりにあり、オープンエアの自然が奏でる音に心が癒やされる

ロイヤル ビタマハはウブド王家の子息が自らデザインし、建築過程に妥協を許さずに着手した完成度の高いホテルだ。今回は大きな専用プールが付いた「Royal Pool Villa」をご紹介したい。1棟あたり約300㎡の面積を持つ渓谷ビューのヴィラで、部屋は王族の伝統を受け継ぐパリスタイルに保たれている。レストランは3カ所あるが、とくに最上階にあるメインダイニング「Dewata Lounge」はホテルの顔とも言えるレストランで、テラス席から壮観な景色を見渡せる。朝食はオールデイダイニング「Ayung Valley Restaurant」のビュフェスタイルがあるが、お勧めはアユン川のほとりにある「Ayung Garden Restaurant」で、オープンエアの自然が奏でる音

に心を癒やされる。かつて資生堂がプロデュースしたスパ施設「Royal Kirana Spa & Wellness」は独立したスパヴィラ 13 棟からなり、喧騒の世界から究極のリラクゼーション空間に誘う。ロイヤル ビタマハは現地の伝統を感じながら上質なサービスを満喫できると評判だが、きめ細かなサービスの陰には一人の日本人女性の支えがある。マンデラ恵子女史は1988年にウブドの元王族に嫁ぎ、王族の子孫が運営するこのホテルのパブリック & ゲストリレーションズ コーディネーターとして活躍中。いわば、日本でいう女将の役割を担い、ホスピタリティの徹底をスタッフ全員に教育している。



ゴージャスな「Royal Pool Villa」のベッドルーム。1棟あたり約300㎡の面積を持つ渓谷ビューのヴィラで、専用インフィニティプールを備えている。リゾート内の客室はすべてヴィラ・スタイルで、四つのカテゴリー、全73戸のヴィラを擁している



純白のレース地の蚊帳が美しいキングベッドからプライベートプール方向を望む



リビングルームからベッドルーム方向。部屋は王族の伝統を受け継ぐパリスタイルに保たれている



十分な面積を確保したバスルーム。プライベートプールへの動線がすこぶる良い



「Royal Pool Villa」に付帯する大きな専用インフィニティプール。渓谷の上段に立地しており、目前に渓谷を一望できる